

## 犬パラインフルエンザウイルス抗体検査方法の変更のお知らせ

弊社では犬パラインフルエンザウイルス（CPIV）抗体検査を中和試験で実施しております。本法は高い感度と特異性を持つゴールドスタンダード法ですが、検査結果の判定に1週間以上を要することから、先生方のタイムリーな検査結果報告の要望に応えることが出来ないことがこの検査項目の欠点でもあります。

このため、中和抗体と相関性が高く、かつスピーディーに結果判定できる赤血球凝集抑制（HI）試験によるCPIV抗体検査の可能性を検討してまいりました。

このたび検討が終了し、本抗体検査の準備が整いましたのでお知らせ申し上げます。本法の利用により大幅に検査日数が短縮できるだけでなく、簡便な方法のため検査料金についても安価に設定することが可能となりました。

4/1（水）弊社到着分よりHI試験によるCPIV抗体検査を開始させていただきます。なお、本変更に伴いこれまでの中和試験によるCPIV抗体検査の受託は終了させていただきます。

項 目	検査方法	検査材料	所要日数
犬パラインフルエンザウイルス(CPIV)抗体検査	赤血球凝集抑制(HI)試験	血清・血漿 0.1mL	受付後 3日 以内※

※受付日を0日とした営業日換算(土曜、日曜、祝日、弊社の指定休日を含みません)

### 【検査目的】

1. 感染診断 発症時とその数週間後の2つのサンプル(ペア血清)での診断となります。
2. ワクチンの応答状況の確認

幼齢犬(特に多頭数飼育環境)での免疫状況をはかるために本検査は有効です。

少頭数飼育環境の成犬は対象ではありません。

参考基準値 HI抗体価 10倍以上 (次ページの比較データを参照してください。)

### CPIV HI 試験と中和試験との比較データ

下のグラフの通り CPIV HI 抗体価と中和抗体価の間には非常に高い相関性 ( $R=0.970$ ) が示されております。さらに、中和抗体陰性 (3 倍未満) 50 例 (主に SPF 犬) の全てが HI 抗体も陰性 (5 倍未満) であり、HI 試験は高い特異性を有していることも判明しております (グラフ上にはデータなし)。また、CDV、CPV、CAV-1 と違って血中抗体と防御との相関性は必ずしも高くはありませんが、ワクチン応答の一つ基準として中和抗体価  $>10$  が利用されています。今回の検討において HI 抗体価 10 倍以上の場合に全ての例でこの値を上回っていることが確認されています。

